

すくも
自主防災会だより
第20号

小筑紫町福良地区自主防災会
の取り組みについて

福良地区自主防災会の取り組みは、平成23年4月1日制定施行した規約に基づいて始まりました。その目的は言うに及ばず地震の発生から30分以内に来るといふ大津波からいち早く避難場所へ逃げることにあります。最初に取り組んだことは、地区内居住者(住民登録をしていない居住者を含む)を漏れなく把握することでした。そのため、各世帯から居住者の申告(住所、氏名、生年月日など)をお願いし、その結果、ほとんどの世帯から申告がありました。未申告世帯については、その後の聞き取り調査などにより、地区内居住者名簿を作成しました。これらを以後の活動に役立てています。



福良地区備蓄倉庫内資機材

福良地区は、舟ノ川を源流として河口まで延長10・3kmの2級河川「福良川」を挟んで、急峻な山を背にして小集落が点在しており、細長い地形の中に300人ほどが居住しています。このような地形のため、台風などの洪水被害からしばしば分断孤立する経験をして

現在取り組んでいるのは、備蓄倉庫の利活用について、アンケート調査表を各戸に配布しており、①備蓄倉庫を利活用するかどうか、②利活用する場合どのような物品を考

おり、直近では平成13年9月の高知西南豪雨により、堤防が決壊し、家屋の浸水や農地が土砂で埋まるなど改めて災害の恐ろしさを知ったところです。これまで福良地区自主防災会が取り組んできたことは、福良環境保全部会とタイアップした炊き出し訓練の実施、宿毛消防署の指導をいただき、消火訓練およびAEDの取り扱い講習と簡易担架の作り方・運び方の実習、県下一斉避難訓練の実施、配備している防災資機材備品(発電機、チェンソー、灯光器)の取り扱い講習の実施、備蓄倉庫の設置場所の確認を兼ねたピクニックの実施といったものです。



今後の取り組みとして、福良地区自主防災会役員会では、夜間訓練の実施、千寿園職員と連携した訓練の実施、避難行動要支援者との連携、県下一斉避難訓練の継続実施を考えています。計画どおりにいかないのが現状で、また課題としては、福良地区も高齢化が進んでおり、リーダーシップのとれる自主防災組織の担い手をどう確保していくか、ということです。

福良地区自主防災会
代表 尾崎 重幸

消防コーナー

のどに物が詰まったら...

お正月にはお雑煮やおもちを食べることが多いと思いますが、おもちが詰まると、のどに詰まりやすい食べ物です。

おもちに限ったことではありませんが、のどに物が詰まると呼吸ができなくなり、窒息に至る恐れがあるので、できるだけ早く詰めた物を取り除く必要があります。

今回はのどに物が詰まった人への対処法を紹介します。

のどに物が詰まると、多くの場合、『チョークサイン』と呼ばれる反応を示します。これは、自分ののどや胸を掴みながら苦しそうにする動作のことです。口の中に手や箸を入れて、無理やり詰まった物を出そうとするのは、かえってのどや口の中を傷つける可能性があります。

かえってのどや口の中を傷つける可能性があります。やらないようにしてください。このように苦しそうにしている人には、まず咳をさせるようにしてください。咳をするにより、のどの異物を外へ押し出そうとする強い力が働きます。

背中を叩いてあげることも有効です。手の平の付け根に近い部分で、詰まっている人の背中(胸の裏側辺り)を上方向に向けて4〜5回力強く連続して叩くのがコツです。

どうしても詰まった物が出ず、そのうち意識をなくして動かなくなると、もはや一刻を争う状態です。この場合、のどに詰まったものを取るのには中断し、心肺蘇生法を実施してください。

小さな子どもやお年寄りには、噛む力や飲み込む力が弱いのので、あらかじめ食べ物を飲み込みやすい大きさに切ったり、お茶などでのどを潤し、よく噛んで飲み込むよう心がけましょう。

緊急の場合、救急車が到着するまでの間に、周りの人が適切な処置をするか否かで生死が分かれることがあります。救急車を呼んだ後も、救命のために落ち着いて行動しましょう。

取り付けよう
火災警報器！
【問い合わせ先】
宿毛消防署
☎63-33111
☎63-33396
住警器消太



無防備な心に火災がかくれんぼ